第６９次印旛地区教育研究集会
家庭科，技術・家庭科分会

令和元年８月２７日（火）
場所：成田市立成田中学校

印旛地区教育研究会家庭科研究部　研究主題

確かな知識と技能を身に付け，社会の変化に対応し，

生活や技術を工夫し，創造する力を育む学習指導のあり方

５部会研究主題

高齢者の関わりを通して，地域の一員として進んで協働できる生徒の育成

第５部会家庭科研究部

四街道市立	四街道中学校	伊藤　孝子
	旭中学校	末廣　萌子
	千代田中学校	中野　博子
	四街道西中学校	林　知加子
	四街道北中学校	齋藤未帆子

1　研究主題

高齢者の関わりを通して，地域の一員として進んで協働できる生徒の育成

2　研究主題について

（1）学習指導要領から

（平成29年に告示された）中学校学習指導要領家庭分野の目標は，「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す」こととある。また，「学びに向かう力・人間性等」の目標として（3）「自分と家族，家庭生活と地域との関わりを考え，家族や地域の人々と協働し，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。」とある。本研究を通し，地域にはいろいろな世代の人とともに生活していることを再確認させ，自分の生活を支える家庭生活が地域の人々との相互の関わりで成り立っていることや，地域を支える一員として協働する気持ちを持たせることができるようにさせたいと考える。そのために，地域に住む高齢者ボランティアを活用することにより，家庭科の授業を通して地域の人とふれあい，顔見知りとなる機会をもうけるようにした。相互に支え合う社会の構築に向けて，地域社会に関心を持ち，様々な年代の人とコミュニケーションを図ることにより，地域の一員として進んで協働できる生徒の育成につながるだろうと考え，本主題を設定した。

（2）社会的背景

内閣府が発表している高齢化の状況によると，２０１８年１０月１日の時点で，総人口１億２６４４万人に対して，６５才以上の人口は３５５８万人となり，総人口に占める割合は２８．１％となっている。今後，高齢化率は上昇し，高齢者を支える現役世代（１５才～６４才）の割合は低下し，少子高齢化が進んでいくと見込まれている。現在，多くの現役世代は，それぞれが家庭を築き，高齢者もまた家族に頼らず生活することが多くなっている。今後も少子高齢化や核家族化が進む中で，様々な年代の人と触れ合う機会がさらに少なくなり、地域とのつながりもさらに希薄になっていくことが予想される。世代間交流の機会を充実させたり，地域人材の活用により学校運営をサポートするボランティア活動の推進や，家族の教育機会を充実させるために学習機会を提供する家庭教育の支援など，家庭，学校，地域の連携による教育力の向上がさらに重要になると考える。そこで，地域で生活している高齢者を地域ボランティアとして募り，家庭科での協働授業を通して豊富な知識や技術を活用したいと考える。その姿から、生徒たちが今家庭分野で身につけている力が、家庭や地域、社会の中で生かすことができ、社会を生き抜く力として大切なものだということに気づかせていきたい。

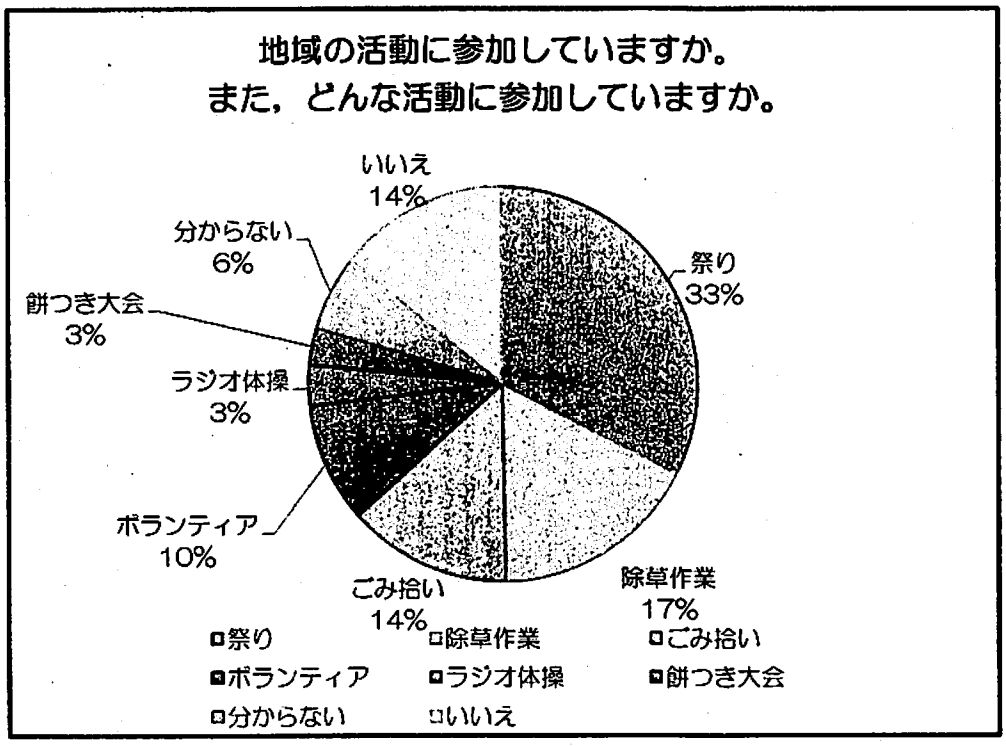
また、地域の一員として協力する高齢者の姿を通して，支えられる側だけでなく，中学生として地域のためにできることは何かを気づかせたい。そして，互いが同じ地域の中で協働しながらよりよい生活を送れるようにさせたいと考えた

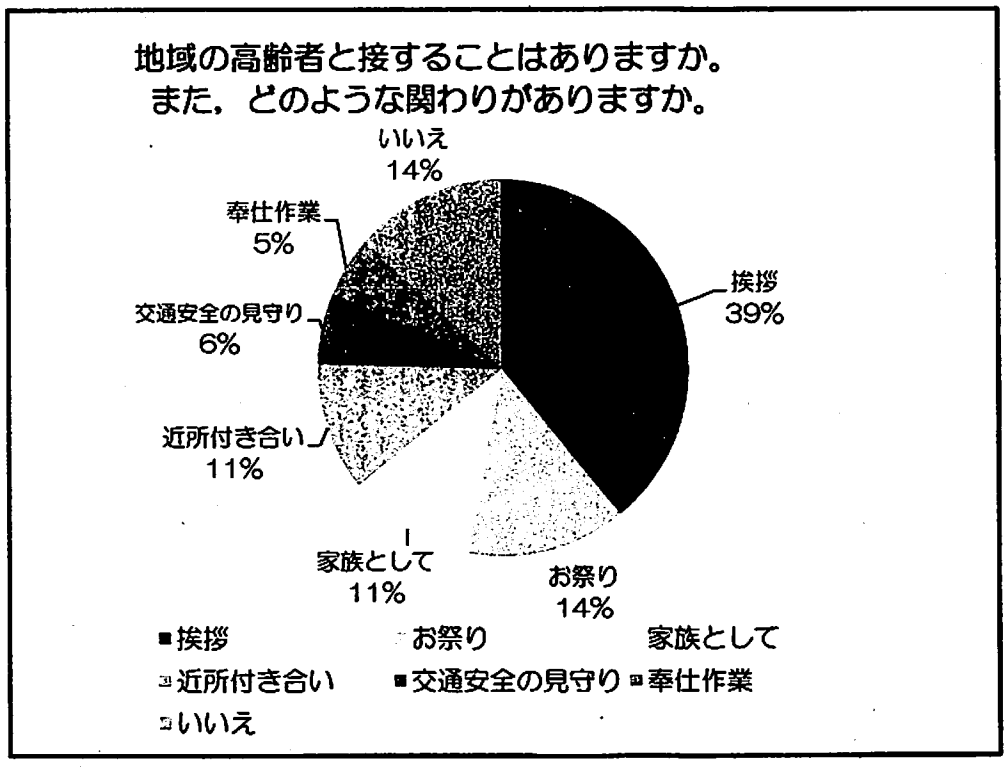
（3）生徒・地域の実態

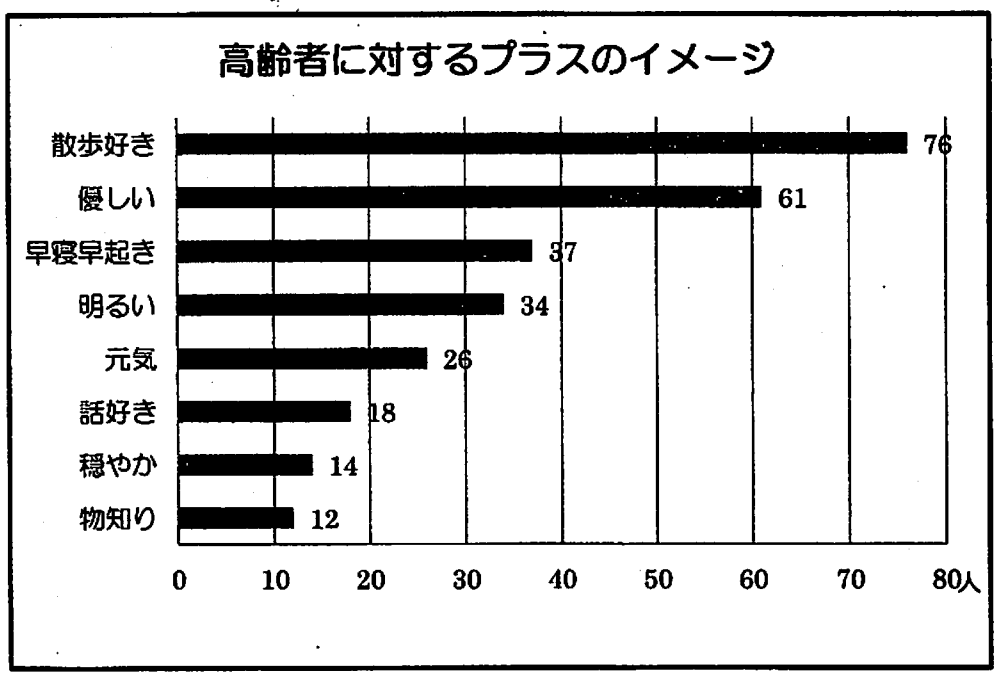
四街道市は千葉県の北部に位置し，千葉市へ８ｋｍ，都心へ４０ｋｍ圏内にあり，広域幹線道路の国道５１号線，東関東自動車道縦断し，千葉市・佐倉市に隣接している。市域は東西７ｋｍ，南北９ｋｍ，面積３４.７ｋｍとなっている。市内には，小学校１２校，中学校５校の他に，私立大学，高等学校，特別支援学校，盲学校がある。新興住宅地が市の中心部だけでなく，各学区に広がり，首都圏へのベッドタウン化が進んでいる。四街道市では，平成２５年度から「明日を切り拓く，心豊かでたくましい人づくり」を基本理念に「四街道市教育振興基本計画」をスタートさせ，様々な施策を講じている。その一つとして，小中一貫教育に取り組んでいる。義務教育９年間を捉えて，各中学校区単位でそれぞれの特色を生かしながら，共通した児童生徒像「１５歳の姿」を設定した。平成 25 年度より，千代田中学校区をモデル校に研究を開始し，平成２７年度から四街道中学区と旭中学区が，平成 28 年度からは四街道西中学区と四街道北中学区が加わり，平成３０年度より市内で小中一貫教育を完全実施している。

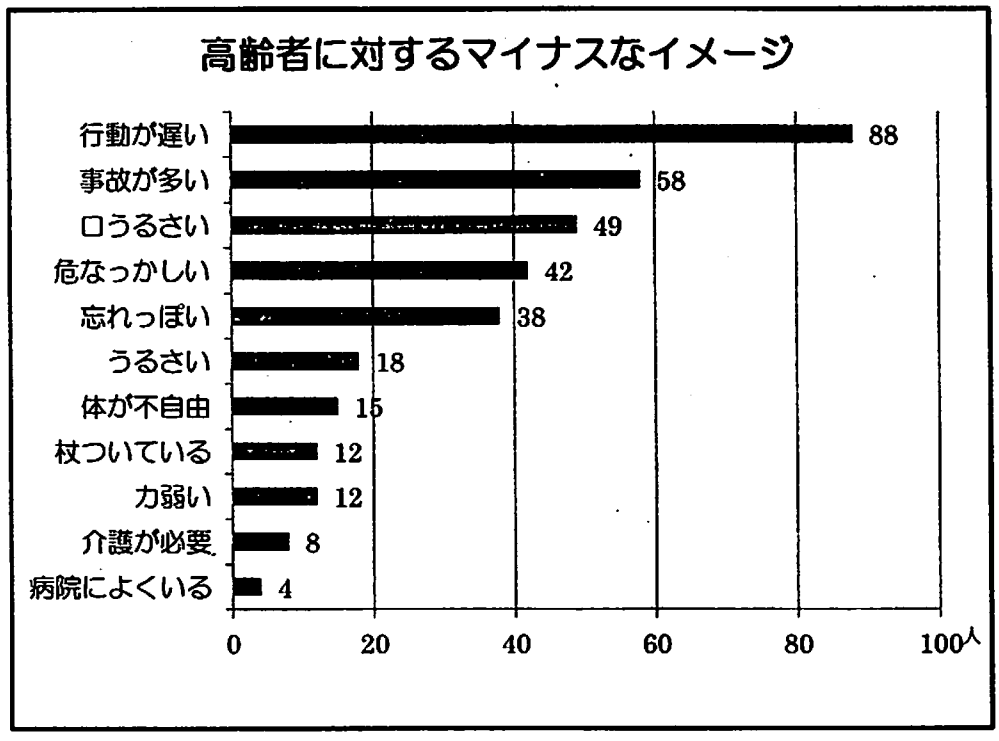
四街道市内５校（四街道中・四街道旭中・千代田中・四街道西中・四街道北中）共通のアンケートを実施した。アンケートの結果によると，学校差はあまり見られず，地域の活動に参加する生徒は約８６％という結果になった。参加状況は，地区で行われる「祭り」が一番多く，次に「除草作業」や「ゴミ拾い」となっている。また，高齢者と関わる生徒は約８０％と比較的高いものの，関わり方としては「挨拶」が一番多く，中学生から積極的に関わりをもつというよりも，登下校時のすれ違う時や交通安全の見守り時に挨拶をする程度と捉えている。一方で，高齢者に対するマイナスのイメージとして，「行動が遅い」「危なっかしい」といった身体の衰えに関することや「口うるさい」など高齢者に対してうっとうしく感じている生徒もいた。そこで，本研究では，各中学校区に住んでいる高齢者との関わりを授業の中に取り入れ，実際に高齢者の方と交流を持つことにより，中学生も家族や地域の一員として支える側になることができることを知らせ，中学生ができることは何かを考えさせ，実践することで地域がよりよくなっていくことに気づかせたい。また，高齢者に対してマイナスのイメージをもっている生徒の変革を目指し，指導方法の工夫や他教科との連携をはかっていく。

（市内５校抽出クラスで実施　３７０人）






高齢者に対するプラスのイメージ
散歩好き
優しい
早寝早起き
明るい
元気
話好き
穏やか
物知り
76
61
37
34
26
18
14
12
0
10
20
30
40
50
60
70
80人


高齢者に対するマイナスなイメージ
行動が遅い
事故が多い
口うるさい
危なっかしい
忘れっぽい
うるさい
体が不自由
杖ついている
力弱い
介護が必要
病院によくいる
88
58
49
42
38
18
15
12
12
8
4
0
20
40
60
80
100人

3　研究のねらい

授業を通して，地域の高齢者と関わり，地域を知ることによって，中学生ができることを考え，地域の中で積極的に実践していけるようにする。

4　研究仮説

（1）地域ボランティアを活用することにより，地域の方とのコミュニケーションができ，地域での活動に参加しやすくなるであろう。

（2）高齢者の身体的特徴を知り，授業で交流することで，家庭や地域の一員として積極的な関わりが持てるようになるであろう。

（3）他教科との連携により，地域愛を育てることで地域の一員としての自覚が深まるであろう。

5　研究内容

年度	月	内容
平成３０年度	７	提案テーマ，アンケート内容の検討
	９～１２	アンケートの実施集計
～ 令和元年度	１～ R1.6	授業実践 ① 四街道中「調理実習」実施　（地域ボランティア） ② 千代田中「浴衣の着付け」実施（地域ボランティア） ③ 四街道中「箸袋の製作」実施（地域ボランティア） ④ 四街道西中・旭中「基礎縫い」実施（地域ボランティア）
	６～８	研究の見直しとまとめ

6　指導計画

学年	技術分野	時配	家庭分野	時配	道徳等
1	ガイダンス	2	ガイダンス	2	C-（１４）
	A：材料と加工に関する技術		A：家族・家庭と子どもの成長	2	家族愛，家庭生活の充実「ごめんね，おばあちゃん」
	（1）ア・イ		（2）ア・イ		
	（2）ア・イ・ウ		C：衣生活・住生活と自立		
	（3）ア・イ・ウ		（1）ア・イ・ウ		
	・生活に役立つ木製品の製作	25	*・日常着の活用　実践1*	4	C-（１６）
	D：情報に関する技術		*・日常着の手入れ　実践4*	2	郷土の伝統と文化の尊重，国を愛する態度「伝えたい味」
	（2）ア・イ		（2）ア・イ		
	・レポートの作成	8	・快適に住まう	4	
			（3）ア		
			・布を使った製作　実践2	17	

			B：食生活と自立 （3）ア	4	
2	B：エネルギー変換に関する技術 （1）ア・イ・ウ （2）ア・イ ・ＬＥＤスタンドの製作 A：材料と加工に関する技術 （2）ア・イ・ウ D：情報に関する技術 （1）ア・イ・ウ・エ ・ネットワークと情報モラル	27 4 4	B：食生活と自立 （1）ア・イ ・栄養素のはたらき （2）ア・イ・ウ ・食品群について ・バランス良い献立作り ・食品の選択 （3）ア・イ・ウ *・日常食の調理　実践3* D：身近な消費生活と環境 （1）ア・イ （2）ア	4 3 8 4 8 8	C-（16） 郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度 「伝えるということ」 B-（6） 思いやり，感謝 「譲る気持ちはあるのに…」 社会科（地理分野） 「日本の人口と過疎・過密問題」
3	C：生物育成に関する技術 （1）ア・イ （2）ア ・グリーンリーフレタスの栽培 D：情報に関する技術 （2）ア・イ ・レポートの作成 （1）ア・イ・ウ・エ ・プログラムの作成と制御	8 9	A：家族・家庭と子どもの成長 ・幼児のおもちゃ製作 （1）ア ・自分の幼児期を振り返る （3）ア・イ・ウ ・幼児の成長について ・幼児の遊びについて	 13 1 2 2	C-（14） 家族愛，家庭生活の充実 「テーブルの卵焼き」

＊斜線太字の単元・・・地域ボランティアの活用

7　授業実践

（実践例１）

（１）題材名　　地域の方から浴衣の着方を学ぼう

（２）本時の目標

・地域の方との交流を通して，互いの役割を理解することができる。【知識・理解】

・浴衣の着方について理解することができる。【知識・理解】

（３）展開

時配	学習内容と活動	指導・支援　評価○	資料 道具
3	1．*地域の方を紹介する。*	・自分たちの授業のために，これだけ多くの地域の方が協力してくださっていることに気づかせる。	
	地域の方から浴衣の着方を学ぼう。		
25	2．浴衣の構成と着方について知る。 ・男女に分かれて着方についての説明を聞き，実際に浴衣を着てみる。 女子の帯は，文庫結び 男子の帯は，貝の口結び	・洋服と和服の違いを説明する。 ・男女の浴衣の違いについて説明する。 ・*地域の方がモデルとなり着方について説明する。* ・グループごとに浴衣を着させる。 ○浴衣の着方について理解することができたか。 【知識・理解】（観察） Ｃへの手立て：地域の方に協力してもらいながら、手順を再度確認させる。 Ａ：自分で自分の帯を結んでいる。	浴衣 帯 ひも 帯板（女子）
12	3．浴衣のたたみ方について知る。 ・*地域の方の模範を参考に*，各自でたたむ。→お借りした地域の方に返却する。	・自分の浴衣は自分でたたむように助言する。 ・*手順がわからない生徒には，地域の方に教えてもらうように促す。*	
10	4．本時の授業の感想を発表し，ワークにまとめる。	○地域の方との交流を通して，互いの役割を理解することができ	ワーク

	5．*地域の方から一言* 次時の予告をする。	る。 【知識・理解】（発表・ワーク） Cへの手立て：他の人の発表を聞いて、自分のこととして考えをまとめられるようにする。 A：授業を通して、これからの生活をよりよくしていこうと考えている。	

＜生徒の感想＞

○浴衣の色や模様は様々で，身につける人によって大きく印象が変わって，おもしろいなと思いました。地域の人と交流することで，昔からの文化などをより身近に感じることができて，とてもいいなと思いました。地域で行われるお祭りには，今回の授業で学んだことを活かして，自分で浴衣を着ていきたいと思いました。（女子生徒）

○高齢者のイメージじゃなくて，着物を着ているとピシッと背筋が伸びていて，とても若く見えました。私はすごい猫背だけど，帯を締めると背筋がきちんと伸びました。中学校の授業でこれだけ集まってくださって，着物も集めてくださって，地域の方はとてもパワフルだと思いました。（女子生徒）

○和服は，女子が着るもので，男子はあまり関係ないと思っていたけれど，実際に着方を教わり，イメージが変わりました。いつも夏祭りに洋服で行っていたけれど，今年は浴衣を着ていこうかなと思いました。お年寄りから若い人に伝統をつなぐというのはとても大切なので，これからも交流を増やしていくべきだと思いました。（男子生徒）

○あまり浴衣を着る機会がないので，貴重な時間でした。浴衣（着物）のつくりは難しいけれど，日本人の体や顔に合っている物を生み出した日本の文化はすごい。だから一人でも着られるようになりたいです。日常的に日本の伝統に触れる機会が減っているので，自分たちも教わったことを伝えていけるようにしたいです。（男子生徒）

（実践例２）

（１）題材名　箸袋を作ろう

（２）本時の目標

・本返し縫いや半返し縫いを理解しながら，丁寧に本体を縫うことができる。【技能】

（３）展開

時配	学習内容と活動	指導・支援　評価○	資料 道具
5	1．*地域の方を紹介する。* 本時の学習課題を確認する。		
	本返し縫いや半返し縫いを理解しながら，丁寧に本体を縫うことができる。		
8	2．「本返し縫い」と「半返し縫い」注意点等について確認する。	・「本返し縫い」と「半返し縫い」を iPad で撮った動画をテレビに映し，丁寧に細かく縫わないと，裏返したときに布の端が飛び出てしまうことを知らせる。	iPad テレビ 裁縫道具 材料
72	3．箸袋作りを行う。	・針は直接机に置かず，針山に刺すことに気をつける。 ・アイロンの扱いに気をつける。 ・やけどやけがをした時には知らせることように伝える。 *※地域の方には積極的に机間指導してもらう。* ○「本返し縫い」や「半返し縫い」を理解しながら，丁寧に本体を縫うことができたか。 【技能】（観察） Ｃへの手立て：「本返し縫い」や「半返し縫い」の動画をもう一度見せたり，やって見せる。 Ａ：「本返し縫い」や「半返し縫い」を理解しながら，丁寧に本体を縫うことができる。	
10	4．片づけをする。	・班の分担を知らせる。	

5	5．*地域の方から一言* 次時の予告をする。		

＜生徒の感想＞

○わからなかった縫い方をやさしく教えてくれて嬉しかったです。また来てほしいなと思いました。とても嬉しかったです。（女子生徒）

○わからないところを分かりやすく教えてくれて，覚えることができました。小学校のころよりも上手に針を使えるようになりました。（女子生徒）

○わからないときに一つ一つ丁寧に教えてくれてとても分かりやすかったです。分からないときすぐに声をかけてくれてとても助かりました。（男子生徒）

（実践例３）

（１） 題材名　調理をしよう「鶏の照り焼きときんぴらごぼうを作ろう」

（２） 本時の目標

・肉と野菜の性質について理解し，調理をすることができる。【技能】

時配	学習内容と活動	指導・支援　評価○	資料 道具
5	1．身支度を整える。	・エプロン・三角巾・マスクの着用をさせる。	ワークシート
2	2．*地域の方を紹介する。* 本時の学習課題を確認する。		
	鶏の照り焼きときんぴらごぼうを作ろう。		
10	3．「野菜」「肉」の調理上の性質を学習し，実習の流れを説明する。 （鶏の照り焼き） 肉の下味をつける。しばらく置いておく。 ↓ （きんぴらごぼう） ごぼうとにんじんを千切りにする。 ↓ （きんぴらごぼう） ごぼうとにんじんを炒め，作り上げる。 ↓ （鶏の照り焼き） 肉を焼く。	・ごぼうの褐変について知らせる。 ・たんぱく質の凝固を知らせる。 ・実習することにより，調理上の性質を理解することができる。 ・褐変が起きないようにするためとあく抜きのために，ごぼうを水につけることを伝える。 ・生肉と加熱した肉の大きさを測ることを伝える。 ・千切りの示範をする。 ・細菌の繁殖を抑えるために，生肉を使った後の用具はしっかりと洗剤で洗うことを伝える。 ・肉を焼くときの火加減に注意させる。 ・衛生面・安全面に注意して作業するように伝える。 ・手際よく実習を行うために，必要なものを手が空いた生徒が用意するように促す。	
40	4．「鳥の照り焼き」と「きんぴらごぼう」を作る。	○手順を理解し，照り焼きときんぴらごぼうを作ることができる。	ワークシート

		【技能】(観察・ワークシート) C への手立て：班員と協力して実習を行わせる。 A：調理方法や野菜の切り方を実践させる。 ・*班に１人，地域の方が入って実習を行う。* ・味や焼き加減は適切であったか考えさせる。	
15	5．試食する。	・*地域の方も一緒に試食する。*	
15	6．片づけをする。	・後片付けを手際よく行わせる。 ・終わった生徒からワークシートを記入させる。	
13	7．本時のまとめと自己評価をする。 *地域の方から一言。*	・たんぱく質は加熱すると大きさが縮むことを確認する。 ・ごぼうはなぜ，水につけておかなければならないのかを確認する。 ・本時の学習を今後の生活に活かすように伝える。	

＜生徒の感想＞

○自分たちが上手にできないところをサポートしてくださり，学べることがたくさんありました。このことを参考にして，これからも楽しく料理をしていきたいです。（女子生徒）

○使い終わった器具などを洗ったり，洗い方が食器とフライパンで少し違うなど教えてもらったりしました。（男子生徒）

○照り焼きを作るとき，焼く面はどっちから焼いたらよいか，ソースを入れるタイミングまで教えてくださってよく勉強になりました。（女子生徒）

（実践例４）

（１）小題材名　　日常着の手入れ（まつり縫い・スナップ付け）

（２）目　　標　　・まつり縫いの方法や活用について理解している。【知識・理解】

・スナップ付けができる。【技能】

（３）展開

時配	学習活動と内容	指導・支援　○評価	資料・道具
8	1．*地域の方を紹介する。* 前時の内容を確認する。	・前時の返し縫いやボタン付けの確認をする。	教科書 ワークファイル 裁縫道具
	まつり縫いとスナップ付けをできるようにしよう。		
5	2．まつり縫いがどんなところで使われているかを確認する。 ・ズボンのすそ ・スカート	・各自の制服のすそを確認させたり，スカートのすそを提示したりする。	
10	3．まつり縫いの方法をビデオで見る。 ・三つ折り→アイロン→しつけ→まつり縫い	・事前に撮っておいたまつり縫いの動画を見せる。 ・三つ折りの必要性や表に見えないようにどうするべきか等，確認する。 ・よい例・悪い例を提示して，気を付ける点に気づかせる。	テレビ ビデオ
22	4．まつり縫いを行う。 ・安全に作業する。 ・早く終わった生徒はより綺麗な縫い目で縫えるようにする。	*・地域の方に二つの班に一人程度ついてもらう。糸と布を渡し，疑問の声が上がったり，手が止まったりしている生徒がいたときに声掛けをして，師範してもらう。* ・早く終わった生徒は同じ班で分かっていない生徒に教えられるよう呼びかける。 ○まつり縫いの方法や活用について理解している。 【知識・理解】（ワークシート）	

		Cへの手立て：まつり縫いの方法を，理解できるまでやって見せる。 A：まつり縫いの方法を理解し，丁寧に縫うことができる。	
		・全体の作業を止める。次にスナップ付けの説明をすることを伝える。	
10	5．スナップについて知る。 ・スナップがどのように使われるか知り，凹凸に分けて付けることを理解する。 ・スナップ付けの方法をビデオで見る。	・師範用の大きいスナップを提示し，スナップの仕組みを見せる。	師範用スナップ
30	6．スナップ付けを行う。	・*地域の方にスナップを渡し，机間指導しながら，師範してもらう。* ・早く終わった生徒は，同じ班の生徒に教える ・まつり縫い・スナップ付けが終わった生徒は提出用の基礎縫いに取りかからせる。 ○スナップ付けができる。 【技能】（観察）	
		Cへの手立て：スナップ付けの方法を，理解できるまでやって見せる。 A：正しくスナップを付けることができている。	
10	7．片付け	・糸くず等落としたままにしないよう各班の片付けをしっかりさせる。	
5	8．まとめ 自己評価カードを記入する。 *地域の方から一言* 次時の確認をする。		

○玉留めや縫い方の簡単な方法を教えてもらいました。細かく教えてもらったので，よく分かりました。近所に住んでいる方も来ていました。（男子生徒）

○初めてまつり縫いとスナップ付けをやりました。難しかったけど，地域の方が手本を見せてくれ，優しく教えてくれました。何とかできたけど，なかなかきれいには縫えませんでした。素早くきれいに縫えるようになりたいです。（男子生徒）

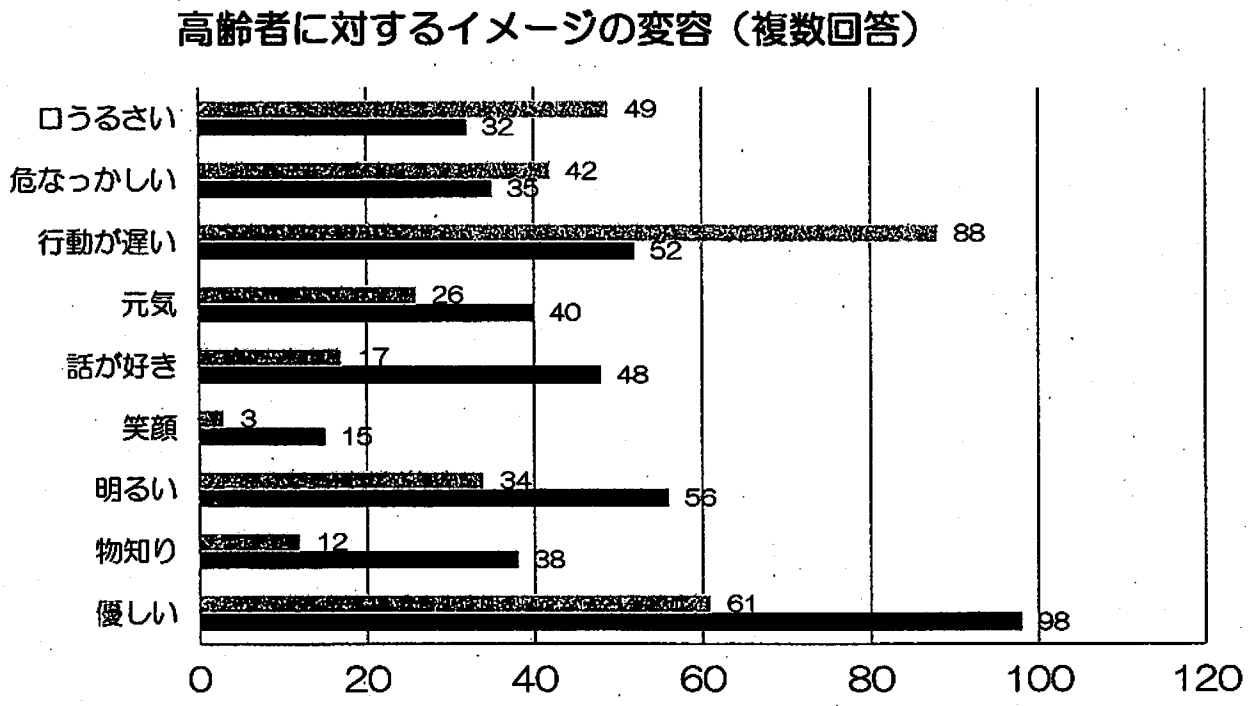
○関西弁のボランティアの方との話がおもしろかったです。まつり縫いがよく分からなかったけど，できるようになりました。自分で作ったトートバックを使っていて，売っている物のようですごいなと思いました。（男子生徒）

○みんながまつり縫いを進めている中で，自分は分からずにいたところ，地域の方々が話しかけてくれました。丁寧にやさしく，分かりやすく教えていただいたので，だんだんできるようになりました。地域の方々にとても助けられて嬉しかったです。（女子生徒）

○地域の方々にまつり縫いを教えていただいて，きれいに縫えるようになりました。友達がすごく上手でいいなと思いました。地域の方々が，縫っているのを見て，とても早くて，驚きました。私も地域の方々のようにもっときれいに縫えるようになりたいと思いました。（女子生徒）

○地域の方々に教えていただいて，まつり縫いはできるようになりました。最初は一人で分からないところがあったのですが，そこを丁寧に教えていただきました。まつり縫い以外も簡単な縫い方などを教えてもらい，とてもよかったと思います。（女子生徒）

8　成果と課題



	優しい	物知り	明るい	笑顔	話が好き	元気	行動が遅い	危なっかしい	口うるさい
□授業前	61	12	34	3	17	26	88	42	49
■授業後	98	38	56	15	48	40	52	35	32

仮説１に対して

◎地域の行事に参加していない生徒の中で，今後は祭りの手伝いや公園清掃などに参加したいという気持ちの変容が見られた。

◎体力がなく，元気がないなどの高齢者のイメージが「優しい」「物知り」「明るい」などの好印象に変わった生徒が増えた。

◎地域ボランティアの方々からのコメントを見て，指導方法の助言をいただくなど教師自身の励みとなった。（社会福祉協議会の方は，ボランティアの協力者に対し，教師主導を守って生徒に対応するよう伝えてくれた→そのためにも綿密な打ち合わせが必要）

△地域ボランティアを活用するにあたり，体調面を考え，交流を持つ時期を考える必要がある。

仮説２に対して

◎地域の人の力になりたいと思う生徒が出てきた。

◎以前よりも家庭や地域の一員として支える側にたちたいという生徒が増えた。

◎地域の方への生徒の態度が好意的だった。

△地域の方（高齢者）を受け入れられない生徒がいたときの対応を考える必要がある。

△調理実習の際，試食するときの地域の方の材料費をどこから出すべきなのか。出せるようなシステム

作りが必要である。

△複数実施した学校と１回しか実施していない学校では生徒の変化の違いがあった。

仮説３について

◎家庭科の授業前後に，道徳の授業で家族愛や郷土愛を題材にすることで，地域愛を深めることができた。

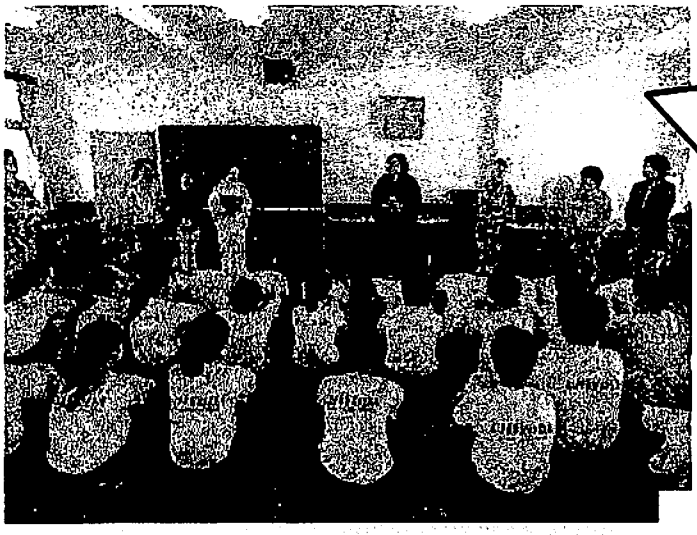
◎社会科の人口に関する授業では，高齢化社会への関心を高め，自分たちの住む地域のことと関連づけて考えを深めることができた。

まとめ

１回だけの交流授業ではなく，複数回交流授業を行うことが協働できる生徒の育成につながるのではないか。１回だけの交流授業を行った学校と，複数回交流授業を行った学校では，授業後の生徒の感想が明らかに違っていた。複数回行った学校では，これから地域に目を向け，助け合っていかなければいけないといった感想が見られたのに対して，１回だけしか行っていない学校ではそこまでの感想が出なかった。複数回行うことで地域の方との関係を築くきっかけになり，地域の方とまた話をしてみたいと思うことができたのかもしれない。また，地域の方と話すなかで地域のことを話したり，教わったりすることで地域に興味・関心を持つことができたと思われる。このことから，こういった授業を行っていくことで，生徒が地域の方との人間関係を築き，地域の一員として地域の力になっていくことができるのではないかと感じた。今後もこの活動を継続していくことが大切ではないかと思う。

資料

＜浴衣の着付けの授業から～授業の様子と地域の方の感想～＞



講師として，千代田中の民生委員，千代田盆踊りの会，かっぽれの会の方に協力していただきました。男女の浴衣を生徒全員分用意してくれて生徒たちも興味津々でした。
また，ボランティアの方も生徒の関心を高めるために着物で来校された人も多くいました。

男女に分かれて浴衣を選び，説明を受けながらできるだけ自分で着ていきます。女子は文庫結び，男子は男結び（貝の口）に挑戦しました。浴衣は，色合いや柄に違いがあり，生徒たちは自分に合った浴衣を選ぶことができました。また，たたみ方も一人一人ていねいに教えてもらい，自分でたたんで返却することができました。

ボランティアの方より

中学生が和服にふれる機会として夏前に自分で着る体験を家庭科の授業で行う，とてもすばらしい事だと思います。今後機会を重ねると，内容も手順もアップすると思います。地域の者として，できる協力は惜しみませんので。（60代）

子どもたちの楽しげな表情を見て，私たちも癒やされ楽しかったです。（60代）

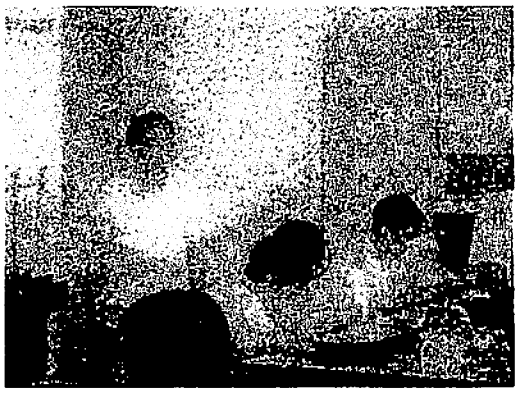
男子を受け持ちましたが，着付けられた時の顔がすてきでした。（70代）

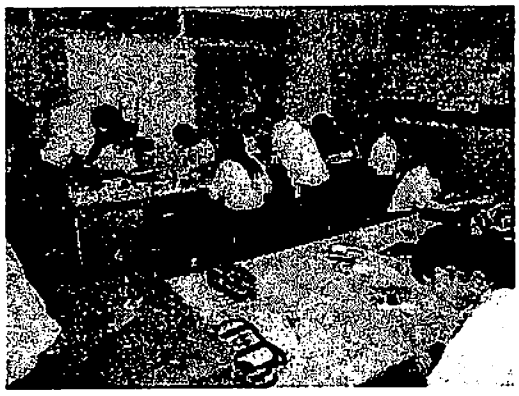
中学生とふれあえて良かったです。久しぶりに若い世代の方たちと過ごし，自分も若返った気がします。着付けだけでなく，盆踊りをみんなで踊りたかったです。（70代）

中学生とふれあえてよかったです。伝統文化に少しでも触れられたと思います。中学生は思ったより大きいですね。（70代）

人に教えるというのは難しいと思いました。クラスごとに特徴があり，楽しく過ごす事ができました。このような機会を与えてくださりありがとうございました。（70代）

着付けを対面で教えることの難しさ，大変勉強になりました。体操服から浴衣姿になった時の表情の変化が楽しかったです。（70代）





<地域の方の一言>

○まだ，幼さが少し残っていてかわいかったです。特に男子はわんぱくですが，自分なりに頑張っている様子に癒やされました。こうして子供たちと楽しい時間をいただき，ありがとうございました。

○縫い物は苦手のようでしたが，楽しく進められてとてもよかったです。自分のペースでお互いに教え合いながら行っていることで，さらに楽しく進められているのではないかと思います。

○はじめはどうなるかと思いましたが，回を重ねていくうちに生徒たちとも仲良くなれたなと感じました。かわいい箸袋が完成することと思います。楽しく過ごさせていただきありがとうございました。機会がありましたら，また，呼んでいただければと思っております。

○初めてのボランティアを終えて，とても有意義な時間を過ごすことができました。素直でよい生徒さんでした。男女の差はありましたが，男子生徒さんたちも，一生懸命頑張っておられました。

○最初は一人一回ずつでたくさんの人がボランティアを体験できた方がよいのにと思っていましたが，回を重ねるごとに生徒さんの見方，接し方も変わったようで複数回のボランティアも意味があったように思います。生徒さんは可愛く，より親近感をおぼえました。生徒さんたちも私たち地域の住人を身近に感じてくれたら嬉しく思います。

○とても楽しい時間を過ごさしていただきました。生徒たちが明るく素直で楽しそうにしているのは授業が押し付けでないからでしょう。集中できていないような生徒も課題にはきちんと取り組み感心しました。

○教え込んだほうが時間はかからないのでしょうが，生徒たちが自分で考え進めていっているのを先生は待つ姿勢で授業をしていること，教科書の図や説明だけでは理解が難しい内容なので，大きな模型で示し，やって見せることで，分かりやすく授業を飽きさせない等の工夫があるからこその，雰囲気だったと思います。

○準備から片付けまでが，日常生活を送るうえで必要な内容なのであり，それこそ家庭科だと再認識しました。玉結びのできた数を「0～5 個の人」と尋ねたことも良いなと思いました。少ない生徒はほっとしたことでしょう。

○休憩時間の遊びの盛り上がりから，授業が始まってからの取り組みの切り替えが早く，かなり集中していたのでびっくりしました。ほとんど話もせず，お互い教えあいながら進めていました。素直な生徒さんで，心穏やかなひと時を過ごさせてもらいました。

○中学校にあまり来る機会がないため，学校や中学生の様子を見るのがとても新鮮でした。生徒たちは素直で，教えることができてとても楽しかったです。また機会があれば参加したいです。

○孫と一緒に住んでおらず，中学生との関わりがあまりないため，今回中学生と関わることができてうれしく，孫のように思って接しました。実習では，自分たちも分かっていないことに気づかされることもあり，発見が多かったです。まつり縫いとスナップ付けを教えることはとても大変なことだと思いました。

○知っている生徒はいませんでしたが，男の子のやんちゃな様子を見たり，女の子と楽しくお話したりすることができ，来てよかったと思いました。学校に足を運ぶ機会はあまりないので，来る前は不安もありましたが，楽しくできました。まつり縫いやスナップ付け等，生活に役立つことを家庭科でしっかり身につけてほしいなと思いました。